

株主のみなさまへ

---

第63期 営業のご報告

---

2008年4月1日～2009年3月31日  
HOUSE FOODS REPORT



株主のみなさまには日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年4月より社長に就任いたしました浦上博史でございます。引き続き「お客さま起点の経営」に取り組み、お客さま、株主さまのご要望に近づく努力を続けてまいりますので、変わらぬご支援をお願い申し上げます。

2009年3月期の事業の概況をご報告させていただきますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

### 売上計上基準変更の影響もあり減収となりましたが、実質前期並みの売上を確保しました。

カレー、シチュー、スパイス、レトルトなどのコア事業では、内食・米飯回帰傾向のなか、“ファイトカレープロジェクト”や野菜ソムリエとのタイアップ企画などのプロモーション活動を展開し、市場の活性化を推し進めてまいりました。また、多様化するお客さまのご要望に対応すべく、カップタイプ製品をはじめとする即食・個食型製品のラインナップを拡充するなど、新しい需要の創造に取り組んでまいりました。

健康食品、飲料、米国豆腐事業のコア育成事業では、機能性飲料製品の販売機会アップのためのキャンペーンを積極的に行いましたほか、購買層を広げるべく、製品ラインナップの充実を図ってまいりました。また、子会社ハウ

スウェルネスフーズ(株)では、新製品の投入による“C1000ブランド”の一層の拡充に努めるとともに、製品開発やマーケティング活動における当社との連携強化により、グループとしてのシナジーの発揮にも注力してまいりました。さらに米国における豆腐事業では、大豆価格の高騰による厳しい経営環境のもと、価格改定を行いましたことに加え、引き続き重点攻略エリアを設定し、取扱促進を含めた新規顧客の開拓に努めてまいりました。

当連結会計年度の連結売上高は前期比4.8%の減収となりましたが、2008年4月1日より、従来、販売費及び一般管理費に計上しておりました経費の一部を販売価格から差し引くよう販売制度を改定いたしましたため、同一基準で比較した場合、連結売上高の前期比は0.05%の微増収となります。

### 連結営業利益、連結経常利益、連結当期純利益は増益となりました。

利益面ですが、「ウコンの力」やルウカレーなどの主力製品の増収に加え、コストダウン活動の継続的取組やマーケティングコストの効率的運用などが奏効し、連結営業利益は前期比15.3%の増益、連結経常利益は前期比22.6%の増益、連結当期純利益は前期比32.2%の増益となりました。

### 期末配当金は1株につき11円とさせていただきます。

当期末の配当金につきましては、1株につき11円とし、中間配当金の11円とあわせまして、年間計22円とさせていただきます。

当社グループは、株主のみなさまへの利益還元を経営の最重要課題の一つと位置づけ、業績・事業計画等を総合的に勘案し、今後も安定的な配当を実施してまいります。

### 2010年3月期は連結営業利益110億円をめざしてまいります。

2010年3月期の見通しでございますが、景気悪化への不安感から消費者マインドも一段と落ち込みを見せ、製品の価格と価値のバランスを重視する購買行動がより鮮明になると考えられます。

当社グループにおきましては、新しい経営体制のもと、本年4月より第三次中期計画をスタートしており、成長事業と収益事業を明確に区分するなかで、それぞれの事業計画にこだわることで、成長シナリオの実現をめざしてまいります。

2010年3月期の業績につきましては、連結売上高は2,330億円（前期比4.7%増）、連結営業利益は110億円（前期比7.8%増）、連結経常利益は120億円（前期比



9.2%増)、連結当期純利益は62億円（前期比31.2%増）を予定しております。また、2010年3月期の配当金につきましては、年間で1株につき22円を予定しております。

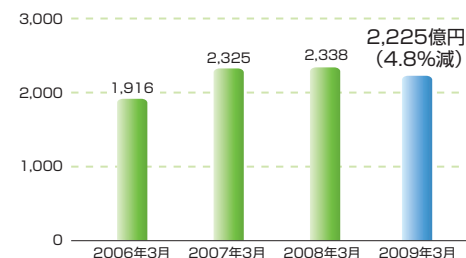
何卒株主のみなさまにおかれましては、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2009年6月

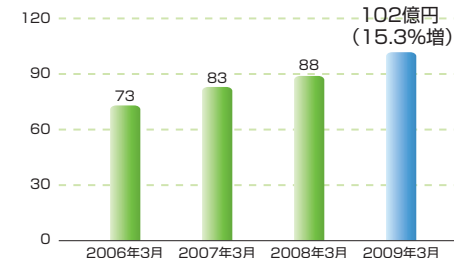
取締役社長 浦上 博史

単位：億円

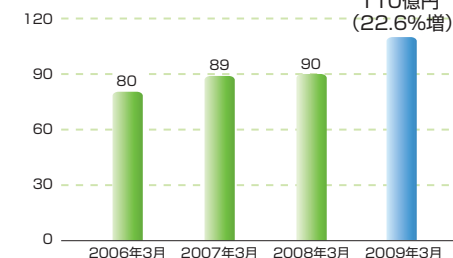
連結売上高



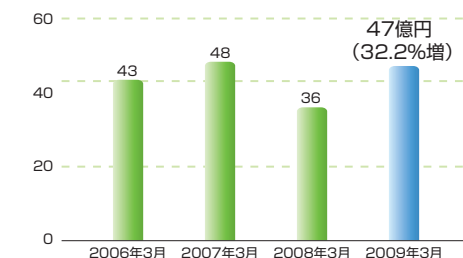
連結営業利益



連結経常利益



連結当期純利益



## 食 料 品

カレー製品は、パンをはじめとする小麦関連商品の値上がりに対し、値ごろ感から米食が見直されるなか、「こくまるカレー」などのルウ製品が好調に推移しましたことに加え、季節限定発売の新製品「カレー鍋つゆ」がお客さまから大きなご支持をいただきましたこと等から、前期実績を上回りました。

スパイス製品は、「ねりスパイス」が好調な伸びを示しましたこと等から、増収となりました。



シチュー製品は、主力の「北海道シチュー」が堅調に推移しましたほか、ラインナップの充実を図りました「北海道チャウダー」が好調に売上を伸ばしました。また、カップ製品では、「カップシチュー」が競合激化により苦戦いたしましたものの、「スープdeおこげ」がその食感の目新しさから女性を中心に支持され、売上拡大に寄与しました結果、全体では前期を上回る売上となりました。



袋麺製品は、ロングセラー製品の「うまかつちゃん」がお客さまから底堅いご支持をいただきましたことから、売上を伸ばいたしました。

レトルトカレー製品は、「ククレカレー」が低調に推移いたしましたものの、「新ヘルシーブレンド製法」を採用し、従来よりカロリーを低減させた「咖喱屋カレー」が好調であったこと等から、増収となりました。



健康食品は、「ウコンの力<カシスオレンジ味>」、「黒ニンニクの力」の発売により、健康機能飲料のラインナップの強化と購入層の拡大が図れましたものの、ハウスウェルネスフーズ(株)の健康飲料「レモンウォーター」などが競合激化により厳しい状況にありましたことから、全体では前期実績を下回りました。

飲料製品「六甲のおいしい水」は、厳しい価格競争の影響から減収となりました。



スナック製品は、主力の「とんがりコーン」や「オーザック」が順調に推移しましたことから、前期並みの実績を確保いたしました。

デザート製品は、前期好調でありました「フルーチェ<ハンディータイプ>」の売上が一巡しましたこと等により、減収となりました。



海外事業におきましては、米国の豆腐事業が、東部・中西部地区での売上拡大によりドルベースで増収となりましたほか、中国のルウカレー事業は、日本式カレーの認知・浸透

が進み、家庭用製品に加え、業務用製品も着実に取扱いが広がりました。また、東アジア圏や米国におけるカレーレストラン事業も、積極的な店舗展開に努めましたことから、業容拡大を図ることができました。

業務用製品では、フレーク・デザート製品が順調に売上を伸ばしましたものの、レトルト製品が今ひとつの状況にありましたことから、全体では前期並みの実績となりました。



当連結会計年度の食料品の売上高は2,115億12百万円、前期比5.0%の減収（前期実績を販売制度改定後の数値に置き換え、同一基準で比較した場合は、前期比0.1%の増収）、営業利益は137億87百万円、前期比24.2%の増益となりました。

※上記の前期実績との比較に関する記述は、前期実績を販売制度改定後の数値に置き換え、同一基準で比較した結果をもとに行っております。

## 運 送 ・ 倉 庫 業 他

物流事業のハウス物流サービス(株)は、当社グループの飲料製品の苦戦によりグループ内取引が軟調に推移したことに加え、比較的堅調でありましたグループ外取引も前年実績を確保できず、減収となりました。

食品分析事業の(株)ハウス食品分析テクノサービスは、グループ内外ともに取引を拡大いたしました結果、増収となりました。

当連結会計年度の運送・倉庫業他の売上高は110億36百万円、前期比0.3%の減収、営業利益は3億24百万円、前期比59.1%の減益となりました。





## 第三次中期計画スタート!

当社グループでは、本年4月より3カ年の『第三次中期計画』をスタートいたしました。株主のみなさまに当社グループの今後の取組内容や経営目標をご理解いただくために、第三次中期計画の概要をご説明させていただきます。

### 第三次中期計画の策定にあたって

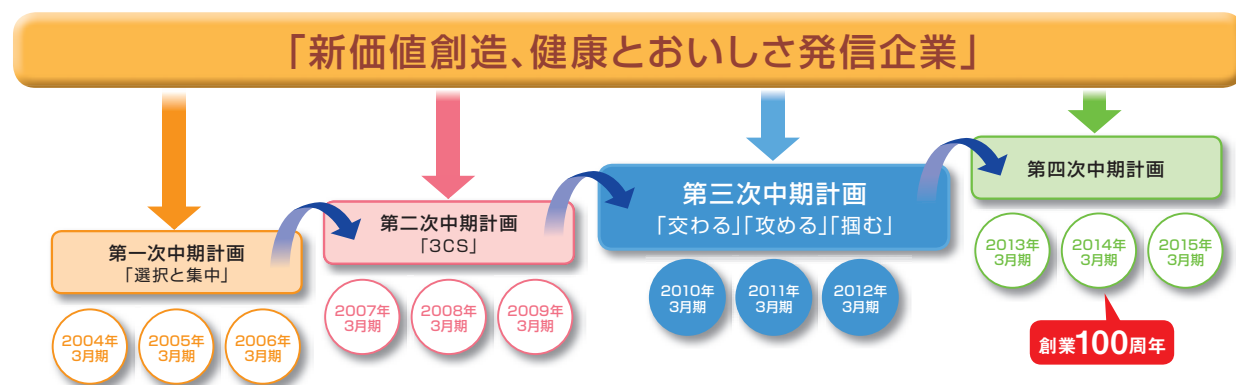


取締役社長 浦上 博史

当社グループでは、6年前の2003年より3カ年ごとに中期計画を策定しております。この2回の中期計画のなかで、コアの事業や、コアに育成する成長分野の事業など、事業ごとに位置づけを明確にして経営資源を適切に配分するとともに、将来に向けた仕込みにも注力することで、継続的な企業価値の向上を目指してまいりました。特に、コア育成事業と位置づける健康食品分野については、『第2のコア事業』と言えるところまで事業基盤を強化することができました。

また、当社の企業理念である「食を通じて、家庭の幸せに役立つ」ような会社に近づくために、当社グループの中期計画では、目指す企業像を『新価値創造、健康とおいしさ発信企業』と定めました。社会環境の変化により、家庭の形が変わり、ライフスタイルが多様化していくなかでも、食を通じてお客さまに“おいしさやすらぎ”を感じていただくためのお手伝いをするのが、創業から変わらないハウス食品グループの使命と考えております。



この『新価値創造、健康とおいしさ発信企業』により近づくために、グループが一丸となって、次の一里塚である第三次中期計画を推進してまいります。



### 第三次中期計画の基本的な考え方:「成長シナリオの再構築と実現」

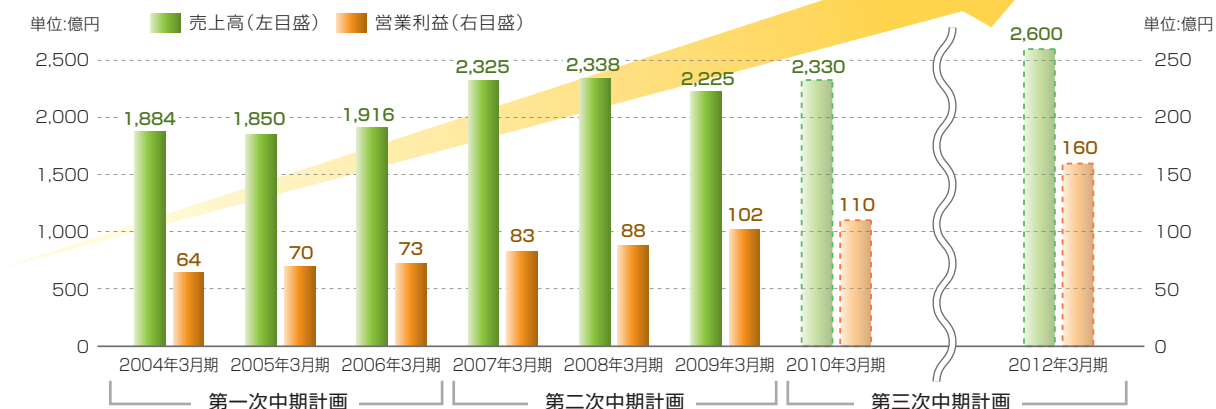
#### 各事業の位置づけ

事業	収益面での事業区分	中期計画での事業の位置づけ
香辛・調味加工食品事業	コア事業	収益ドライバー(付加価値戦略・コスト競争戦略) ブランドや技術的な強みを活かし、中核事業として収益の維持・拡大を図る。
業務用事業		
健康食品事業	第2のコア事業	成長ドライバー(成長戦略) 市場の拡大が見込める領域で、強みを活かし、また新たに獲得して、グループの成長を牽引する。
ダイレクト事業	コア育成事業	
海外事業		



- 重点事業として、『収益ドライバー』、『成長ドライバー』の事業を設定し、新たな成長へのシナリオを描き、推進する。
- 今後も続くと予想される調達リスク・原材料高騰等、収益を圧迫する要因の増加に対し、高いコスト競争力と新価値を生み出す製品開発力・事業開発力をつける。

#### 第三次中期計画への取組を進め、力強い成長軌道を描く



## 『ハウス食品 石川遼 ジュニアゴルフクリニック』開催

当社ではプロゴルファーの石川遼選手によるジュニアゴルファー育成を目的とした社会貢献活動をサポートしております。その一環として、本年3月8日に『ハウス食品 石川遼ジュニアゴルフクリニック』が開催され、石川選手が48名のジュニアゴルファーを指導いたしました。昼食時には当社より“春のいどりカレー”を提供し、石川選手や参加した子供たちから大好評でした。



当社では石川選手が渡米の際に、「ククレカレー」「プライムジャワカレー」「フルーチェ<ハンディータイプ>」を提供するなど、石川選手の活躍を様々な形で応援しております。



## “2段こんがり製法”でつくる油脂分30%カットの新ポテトスナック 「こんがりポテト」新発売!

当社独自の“2段こんがり製法”により、こんがりとしたポテトの香ばしい風味と、油脂分を30%カット(\*)した「こんがりポテト」を本年3月に発売いたしました。

食べやすい一口サイズのスリムな小判型で、こんがりとした色合いのポテトチップスに仕上げました。<マイルドソルト>と<ガーリックペパー>の2種類の味をお楽しみいただけます。

※五訂増補 日本食品標準成分表「成形ポテトチップス」との比較



## 朝にふさわしいレトルトカレー 「めざめるカラダ 朝カレー」新発売!

健康面から朝食の大切さがあらためて見直されているなか、著名アスリートが試合当日の朝にカレーを食べていることが話題になるなど、朝食としてのカレーが注目されています。

ハウス食品では、あつあつのごはんにそのままかけるだけでおいしく食べられるレトルトカレー「めざめるカラダ 朝カレー」を、本年2月に発売いたしました。

朝の敏感な味覚に合うようスパイス感や辛みを抑えるとともに、油脂分を控えめにし、もたれにくくしました。また、朝に摂りたいフルーツ、野菜、ヨーグルトをバランス良く配合し、お茶碗1杯のごはんにちょうど良い量にいたしました。

温めずに手軽にお楽しみいただけるため、忙しい朝にもぴったりです。



## 『ハウス食育体験教室・西宮』開催

NPO法人こども環境活動支援協会（LEAF）の協力のもと、昨年11月9日に兵庫県西宮市のかぶとやまの甲山農地にて『ハウス食育体験教室・西宮』を開催いたしました。

この甲山農地は、「LEAF甲山農地プロジェクト」としてお米や野菜を子ども達と一緒に育てるなどの環境学習を通じた農地保全活動の場となっており、当社もこの活動に協力しております。

参加したご家族は農地での野菜の収穫を楽しんだ後、当社社員と一緒に、その野菜を使ったカレーづくりや、どんぐりなどの木の实や間伐材を利用したクラフトづくりを行いました。

自然の恵みを感じて、環境の大切さや食べ物がどのように作られるかを学び、調理する楽しさを体験していただきました。当社はこれからも環境や食の大切さをお客さまとともに考える取組を積極的に推進してまいります。



連結貸借対照表

単位:百万円

	当 期 (2009年3月31日現在)	前 期 (2008年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	99,916	90,806
現金及び預金	16,920	31,409
受取手形及び売掛金	38,511	39,817
有価証券	28,249	4,371
商品及び製品	7,019	6,623
仕掛品	1,047	840
原材料及び貯蔵品	3,258	3,023
繰延税金資産	3,050	3,041
その他	1,871	1,690
貸倒引当金	△ 10	△ 8
固定資産	128,310	137,455
有形固定資産	64,634	62,667
建物及び構築物	21,330	21,395
機械装置及び運搬具	9,877	12,628
土 地	26,975	27,113
建設仮勘定	373	274
リース資産	5,052	—
その他	1,027	1,257
無形固定資産	13,784	17,739
のれん	10,307	14,503
ソフトウェア	3,152	1,879
ソフトウェア仮勘定	162	1,166
その他	163	191
投資その他の資産	49,892	57,049
投資有価証券	39,844	48,932
長期貸付金	267	34
繰延税金資産	379	208
長期預金	2,100	2,100
前払年金費用	4,568	3,191
その他	2,926	2,779
貸倒引当金	△ 192	△ 195
資産合計	228,226	228,261

負債の部

	当 期 (2009年3月31日現在)	前 期 (2008年3月31日現在)
流動負債	40,357	41,255
支払手形及び買掛金	19,839	20,156
短期借入金	579	603
リース債務	335	—
未払金	12,064	14,719
未払法人税等	3,128	1,748
役員賞与引当金	79	76
その他	4,333	3,954
固定負債	9,347	6,066
リース債務	4,699	—
長期未払金	1,053	846
繰延税金負債	625	1,871
退職給付引当金	2,404	2,731
役員退職慰労引当金	38	20
その他	529	598
負債合計	49,704	47,321

純資産の部

株主資本	178,602	176,483
資本金	9,948	9,948
資本剰余金	23,868	23,868
利益剰余金	146,107	143,977
自己株式	△ 1,322	△ 1,311
評価・換算差額等	△ 406	3,465
その他有価証券評価差額金	941	3,755
為替換算調整勘定	△ 1,347	△ 289
少数株主持分	326	992
純資産合計	178,522	180,940
負債純資産合計	228,226	228,261

連結損益計算書

単位:百万円

	当 期 ( 2008年 4月～ 2009年 3月 )	前 期 ( 2007年 4月～ 2008年 3月 )
売上高	222,549	233,826
売上原価	122,587	123,060
売上総利益	99,962	110,766
販売費及び一般管理費	89,761	101,922
営業利益	10,201	8,844
営業外収益	1,407	1,273
受取利息	393	406
受取配当金	415	432
持分法による投資利益	289	—
その他	310	435
営業外費用	615	1,148
支払利息	41	38
たな卸資産廃棄損	—	238
持分法による投資損失	—	491
為替差損	521	242
その他	53	139
経常利益	10,993	8,969
特別利益	35	562
固定資産売却益	21	13
投資有価証券売却益	2	318
関係会社株式売却益	—	220
その他	12	11
特別損失	1,166	992
固定資産除却損	285	203
投資有価証券売却損	46	—
投資有価証券評価損	52	373
会員権評価損	2	23
減損損失	606	361
退職給付制度改定損	129	—
その他	46	32
税金等調整前当期純利益	9,862	8,538
法人税等	5,203	4,479
少数株主利益又は少数株主損失 (△)	△ 67	484
当期純利益	4,726	3,575

連結キャッシュ・フロー計算書

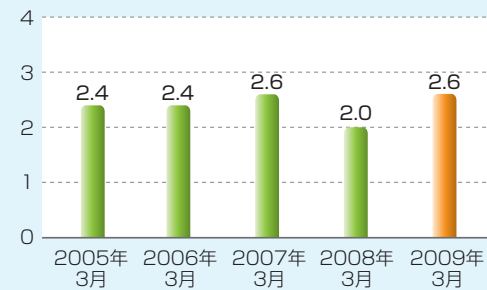
単位:百万円

	当 期 ( 2008年 4月～ 2009年 3月 )	前 期 ( 2007年 4月～ 2008年 3月 )
営業活動によるキャッシュ・フロー (うち減価償却費)	16,525 ( 6,118 )	10,963 ( 5,822 )
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,343	△ 11,504
財務活動によるキャッシュ・フロー (うち配当金の支払額)	△ 2,432 ( △ 2,415 )	△ 4,032 ( △ 3,619 )
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 459	△ 95
現金及び現金同等物の増減額	10,291	△ 4,668
現金及び現金同等物の期首残高	31,389	36,057
現金及び現金同等物の期末残高	41,680	31,389

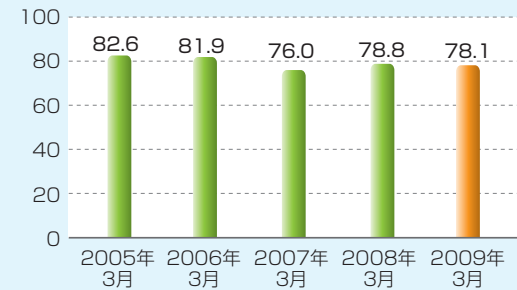


## 連結経営指標

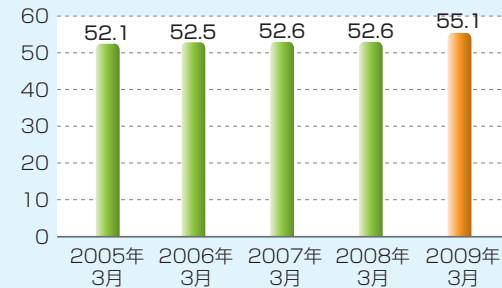
自己資本当期純利益率(ROE) 単位:%



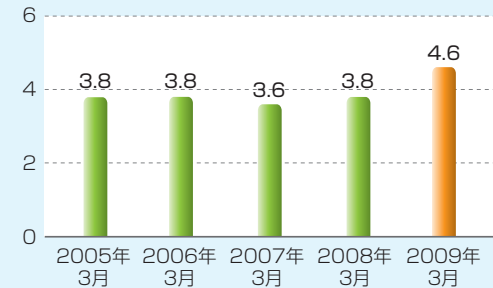
自己資本比率 単位:%



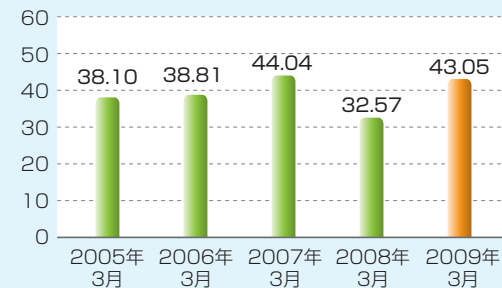
売上原価率 単位:%



売上高営業利益率 単位:%



一株当たり当期純利益 単位:円



## 貸借対照表

単位:百万円

	当 期 (2009年3月31日現在)	前 期 (2008年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	80,066	67,869
固定資産	131,507	141,740
有形固定資産	39,361	41,838
無形固定資産	2,834	2,869
投資その他の資産	89,312	97,034
資産合計	211,573	209,610

負債の部		
流動負債	29,927	28,746
固定負債	1,531	2,972
負債合計	31,458	31,718

純資産の部		
株主資本	179,107	174,104
資本金	9,948	9,948
資本剰余金	23,815	23,815
利益剰余金	146,665	141,651
自己株式	△ 1,322	△ 1,311
評価・換算差額等	1,008	3,788
その他有価証券評価差額金	1,008	3,788
純資産合計	180,115	177,891
負債純資産合計	211,573	209,610

## 損益計算書

単位:百万円

	当 期 (2008年 4月～ 2009年 3月)	前 期 (2007年 4月～ 2008年 3月)
売上高	161,882	169,687
売上原価	79,685	77,180
売上総利益	82,196	92,506
販売費及び一般管理費	70,244	83,011
営業利益	11,952	9,496
営業外収益	2,045	3,443
営業外費用	130	522
経常利益	13,867	12,416
特別利益	13	329
特別損失	1,420	1,355
税引前当期純利益	12,460	11,390
法人税等	5,030	3,940
当期純利益	7,429	7,451

## 会社概要

(2009年3月31日現在)

- ◆創業年月日 1913年11月11日
- ◆設立年月日 1947年6月7日
- ◆資本金 9,948,323,523円
- ◆事業内容 食品製造加工ならびに販売、その他
- ◆従業員数 2,231名
- ◆所在地 大阪本社／〒577-8520  
大阪府東大阪市御厨栄町一丁目5番7号  
TEL 06-6788-1231（大代表）  
東京本社／〒102-8560  
東京都千代田区紀尾井町6番3号  
TEL 03-3264-1231（大代表）

## 役員

(2009年4月1日現在)

取締役会長	小瀬 防	常務執行役員	尾崎 俊郎
取締役社長	浦上 博史		伊藤 研三
取締役専務執行役員	松本 恵司		野村 孝志
			堀尾 啓司
取締役常務執行役員	満 潤		加藤 智一
	菊池 敏朗		田口 昌男
	井上 始	執行役員	加藤 浩
	広 浦 康勝		山 口 守世
	藤 井 豊明		一 柳 和文
			藤村 浩史
			工 東 正彦
取締役	山本 邦克		青 山 寛二
			坂 元 竜
監査役	藤堂 勝久		久住 喜代晴
	吉村 光央		西 田 弘太
	由本 泰正		柴 原 一
	北村 卓三		小 池 章
	治 郎 丸 清志		

## グループ会社

(2009年4月1日現在)

連結子会社（16社）

●国内会社 ●海外会社

持分法適用関連会社（4社） ●国内会社 ●海外会社

- 株式会社デリカシェフ
- サンハウス食品株式会社
- ハウスウェルネスフーズ株式会社
- ハウス物流サービス株式会社
- 株式会社ハウス食品分析テクノサービス
- サンサプライ株式会社
- 株式会社エスバック
- ハイネット株式会社
- 朝岡スパイス株式会社
- ハウスビジネスパートナーズ株式会社
- ハウスフーズホールディング USA Inc.
- ハウスフーズアメリカ Corp.
- 上海ハウス食品有限会社
- 上海ハウスカレーココ壱番屋レストラン有限会社
- 台湾カレーハウスレストラン株式会社
- 韓国カレーハウス株式会社

- 株式会社ヴォークス・トレーディング
- 株式会社壱番屋
- サンヨー缶詰株式会社
- 上海ハウス味の素食品有限会社

## 株式の状況

(2009年3月31日現在)

発行済株式総数 110,878,734株  
発行可能株式総数 391,500,000株  
株主総数 38,225名  
1単元の株式数 100株

### 《2009年3月期配当金》

	1株あたり配当金
第2四半期末	11円00銭
期 末	11円00銭
年 間	22円00銭

## 大株主

(2009年3月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
ハウス興産株式会社	12,585,616	11.4
株式会社HKL	6,000,000	5.4
MORGAN STANLEY & CO. INC	5,550,603	5.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	4,887,900	4.4
株式会社三井住友銀行	3,668,027	3.3
財団法人浦上食品・食文化振興財団	2,872,200	2.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,867,400	2.6
浦上 節子	2,734,569	2.5
味の素株式会社	2,693,543	2.4
日清食品ホールディングス株式会社	2,463,400	2.2

## 株主優待

毎年3月31日現在、当社株式100株以上を所有されている株主さまを対象に、下記の基準により当社グループの製品詰合わせを贈呈いたします。

### 100株以上1,000株未満

[1,000円相当の詰合わせ]



### 1,000株以上

[3,000円相当の詰合わせ]



※2009年3月31日現在の株主さまに贈呈した株主優待製品です。



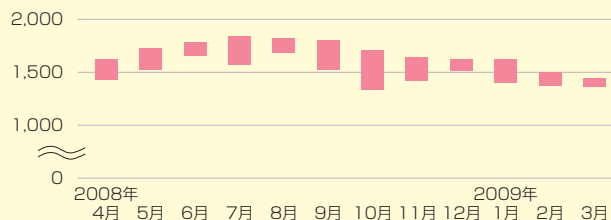
## 株主メモ

- **事業年度** 4月1日から翌年3月31日
- **中間配当制度** あり
- **定時株主総会** 毎年6月開催
- **株主名簿管理人および  
特別口座の口座管理機関** 住友信託銀行株式会社  
大阪市中央区北浜四丁目5番33号
- **株主名簿管理人  
事務取扱場所** 住友信託銀行株式会社 証券代行部  
大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
【郵便物送付先】 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10  
住友信託銀行株式会社 証券代行部
- **【電話照会先】** ☎ 0120-176-417
- **公告の方法** 電子公告により、当社ホームページ <http://housefoods.jp>  
に掲載して行います。  
ただし、電子公告を行えない事由が生じたときは、  
日本経済新聞に掲載いたします。
- **上場証券取引所** 東京・大阪
- **証券コード** 2810
- **ハウス食品  
株主さま窓口** ハウス食品株式会社 総務部 総務課  
〒577-8520 大阪府東大阪市御厨栄町一丁目5番7号  
電話 (06) 6788-1214

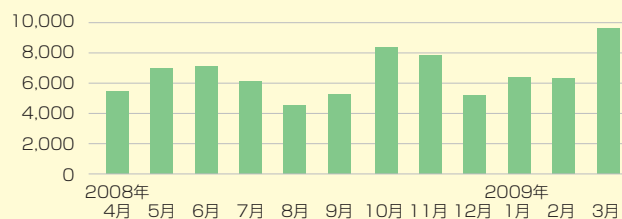
## 株価・出来高の推移

〈東京証券取引所〉

■ 当社株価 (単位:円)



■ 当社出来高 (単位:千株)



### ■ 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

株券電子化に伴い、株主さまの住所変更等のお届出およびご照会は、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせ下さい。

### ■ 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主さまには、株主名簿管理人である住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座に記録された株式については、引き続き株主さまとしての権利(配当金の受領等)は保護されますが、市場での売買ができないなど一定の制約がございます。市場での売買を行うには、特別口座から証券会社等の口座に株式を振替える必要がございます。

特別口座についてのご照会は、下記の電話照会先をお願いいたします。

住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-176-417

ホームページアドレス <http://housefoods.jp>

**ハウス食品株式会社** 〒577-8520 大阪府東大阪市御厨栄町一丁目5番7号

